

会 議 録

会 議 名	平成23年度第3回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	コミュニティ文化課 文化推進係 はけの森美術館		
開 催 日 時	平成23年8月23日(火) 午後6時00分から午後8時00分		
開 催 場 所	前原暫定集会施設 2階B会議室		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 宮村令子副会長 千村裕子委員 淀井彩子委員 豊岡弘敏委員 鈴木茂哉委員		
欠 席 委 員			
事 務 局 員	学芸顧問 薩摩雅登 学芸員 荒木和 神津瑛子 中村ひの 文化推進係 吉川まほろ はけの森美術館 山田耕太郎		
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	<p>報告事項</p> <p>1 展覧会等実施状況・予定について</p> <p>(1) 平成23年度事業</p> <p>「朝倉文夫の猫たち」</p> <p>教育普及事業11月6日(日)「はけのワークショップ市」</p> <p>所蔵作品展(平成24年3月下旬～開催予定)</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 多摩アートミュージアム・ネットワーク</p> <p>「たまわーる<TaMawArt>ラリー」11月30日まで</p> <p>(2) 美術館改修工事について</p> <p>(3) 平成24年度の事業について</p> <p>協議事項</p> <p>(1) 運営協議会からの提言について</p>		

【鉄矢会長】、平成23年度第3回小金井市はけの森美術館運営協議会を開催いたします。

では、次第にのりって報告事項から進めます。1 展覧会等実施状況・予定について、(I)平成23年度事業「朝倉文夫の猫たち」。では、お願いします。

【荒木学芸員】 まず「朝倉文夫の猫たち」が終了しましたので、ご報告いたします。主な関連資料などについては前回の運営協議会で既に配付しておりますし、イベントなども実施報告をしておりますので、省略いたします。

最終的には入場者数は2,732名になりました。9月に入りますと、無料来館者の数が100人単位で入っていると思いますが、これは鑑賞教室で来た小学生の人数です。特に夏休み期間後半あたりから、土日などは常に複数の鑑賞者が展示室にいる状態でした。比較的展示室の滞在時間が長く、1階も2階も非常にゆっくりと作品を楽しんでいらっしゃるお客様が多く見受けられました。

来場者による感想ノートやアンケートを見たところ、来館した層は主に3つ。前回報告しましたように、猫雑誌など、猫好きの人のためのメディアへの広報を強力に進めたこともありまして、ほんとうに遠くからもいらしていただいた猫ファンの方々。それから「朝倉彫塑館が再開するまでこの猫たちに会えないと思っていた」という美術ファン、朝倉ファンの方。そして、親しみやすいテーマだからということで、「初めて来館しました」という地元を中心とした方—我々にとってはこれが一番うれしいことでありませ—こちらから猫展を企画した際にぜひ来てほしいと思っていた人たちの反応が確実にあったということになります。

それから、「朝倉文夫の猫」展に関連づけて2F展示を所蔵作品による猫の特集にしました。そちらのほうも非常にゆっくり見ていただくことができまして、朝倉作品が目当てで来た、中村研一を知らなかったという方にも、「非常におもしろかったです、よかったです」という感想をいただきました。

この猫展に合わせて、所蔵作品のポストカードを新たに作ったり、あるいはセット販売にするという試みをしたのですが、そうしたグッズの販売数にも確かに反映されていきました。当館所蔵作品が注目されるいい機会にもなりまして、これはまだ少し先の話ですが、『猫新聞』という雑誌というか、月刊の新聞なんですけれども、こちらでこのたび中村研一の描いた猫が表紙に採用されることになりました。来年発行予定です。

【神津学芸員】 見ていただければ、南中ですか、武蔵野中、中学校の美術部が

たくさん来館していると思うのですけれども、小学校は鑑賞クラスとして授業があるのですが、中学校は美術の先生が校外実習という形で引率して下さいました。子どもを連れてお母さん、お父さん、ご家族で来る方もとても多く、特に小学生の反応がすごく良かったです。きょう南小学校の図工の発表展示で、小学生たちの猫展というのをやっていて、見てきました。大変かわいい作品がありまして、今週末まで自由に見ることができそうなので、もしお時間がありましたら見にいらしてください。

【鉄矢会長】 どこの小学校ですか。

【神津学芸員】 南小です。私たちも猫をつくりましたということでお便りをいただきまして、ちょっと朝倉風の猫なんかもいたりして、楽しい展示でした。ほかにも他学年のいろいろな作品が並んでいました。

【淀井委員】 この「日本女子大桜風会」は何で来たのでしょうか。

【神津学芸員】 これは同窓生の方たちの集まりが鑑賞にいらっしゃいました。

【淀井委員】 何かゆかりがあるんですか。

【神津学芸員】 いえ、全く……。小金井をいろいろ回って、ランチを含む同窓会のようです。

【淀井委員】 そうですか。

【鉄矢会長】 そのツアーはどんなツアーだったか聞いておくと、どことどこをこう回ったのかというのを知っておくといいかも。

【神津学芸員】 特に美術ツアーというわけではなく、名刺交換をしていたり、いろいろな世代の方がいらっしゃる卒業生の会でした。

【鉄矢会長】 すみません、武蔵野六中というのは小金井市なんですか。武蔵野市？

【神津学芸員】 武蔵野市です。その前に武蔵野図工美術研究会、武蔵野市の小中の先生たちの研究会が当館でおこなわれました。武蔵野市では、今から小学校と武蔵野市立吉祥寺美術館とのやりとりをしよう、連携しようとしているところで、何校かは既にはじめているが、全校ではないということもあって、当館の例を紹介しました。

【鉄矢会長】 そうなんですか。

【神津学芸員】 はい。展覧会の鑑賞も研究会の一部でした。武蔵野市は小学校と中学校が一緒の図工美術研だそうです。大体のところ、小学校は図工研、中学校は美術研と別々で、一緒に研究会をする機会はないということなんですけれども武蔵野市は一緒に、この研究会にいらした中学校の先生がその場で申し込んで下さいました。これは

ぜひ美術部の生徒を連れていきたいと。

【鉄矢会長】 いいですね。何かほかにご意見、ご質問等がありますか。

では、次の事業で、「はけのワークショップ市」ですね。

【神津学芸員】 これは11月6日の日曜日に開催します。こちらがチラシです。たくさん持ってきているので、配れますという方は会議後に声をかけていただけるととても嬉しいです。今まで展覧会以外の休館中のワークショップとして年に2回の割合で過去2年間やっていたのですが、今回は半年休館する中で1日あけるということで、ちょっと盛り沢山の、複数のワークショップを同時に楽しむことができる企画です。

やはりどうしてもそんなにたくさんの人数が入る設備がないので、今まで事前予約制だったんですけども、今回は予約せずにふらっと来ていただけますので、例えば個々のワークショップに参加せずとも、見学するだけでも雰囲気味わって楽しんでいただきたいと思っています。ワークショップの市場がここで開かれているというイベントですので、いつでもふらっと5分でも10分でもお寄りいただければ、楽しいことをしているなど感じていただけたらと思うので、ぜひいらして下さい。

【千村委員】 この日は原っぱまつりですから、万という人が来ますよ。

【神津学芸員】 それもあって開催日を11月6日にしました。はけのおいしい朝市というのは多分ご存じの方もいると思いますが、毎月第1日曜の開催です。今回、その朝市の組合の方々に講師をお願いしてまして、当日9時から1時までは、はけ市が開かれています。はけ市に行って、美術館に寄って、原っぱまつりに行ってと、小金井の様々なイベントをぐるっと楽しむことが1日でできるようになっているので、ほかの市から小金井に注目してほしいなと思います。

【千村委員】 この日はほかにもいろいろなイベントがあるので、たくさんの方が来て、この美術館を知ってもらえるいい機会だと思うんですけども、天気がよければ大変な人が来るのではないのでしょうか。

【淀井委員】 これは宣伝が必要ですね。

【千村委員】 そうですね。

【淀井委員】 駅にも出すんですか。

【鉄矢会長】 これはあれですか。組合員の皆様、ツイッターでつぶやいたりとか、そういう……。

【神津学芸員】 ばんばんつぶやいていただいております。チラシは講師の方々が

各々、自分のつくっているもの、雑貨類を置いているお店にはチラシも配布してもらっています。当館からは通常どおり、近隣の美術館と市内施設に置いてもらっています。あと原っぱまつりも、朝市の中の講師で頼んでいない方が出店しておりますので、原っぱまつりに行ってから、こんなのやっているんだと知ることができるようにはなっています。講師にはいろいろな難易度に分けて欲しいとお願いしています。気軽にだれでも参加できるものや、ちょっと時間がかかって、手をたくさん動かすものなどいろいろなものがあります。

【鉄矢会長】 質問です。二、三時間で終わってしまったら、何か定員をどうかするのか、これ、怖そうだなと思って。頭でばばっと来て、3時ごろ来た人には何もないと、原っぱまつりがあるからいいんですかね。

【神津学芸員】 基本的に展示室の中でやるので、どうしても順番待ちの時間は発生すると思います。ことりストラップは時間が決まっているし、旗飾りづくりは旗を実際につくるスペースがなかったとしても、羊毛フェルトをくるくる回して自分で好きな玉をつくったりだけでも参加することができる。そんなに1人でたくさんできてしまったりとか、すぐ終わってしまうということはないと思うのですが、一概には言えません。美術館ではコラージュしたり、絵をかいたりするコーナーがあるので、休憩がてら遊んでいただけたらなど。あと余り生地でどれだけ遊べるか、各講師の方がいろいろ考えているのではないかと思います。

【鉄矢会長】 なぜかという、私どもキッズ・クリエイトというワークショップをこういうので幕張メッセに行ったときに、予約制でやって、朝から並んでいて、予約が最終回まであつという間に埋まってしまって、あとのんびり来た人は何もできないんです。せっかく来たのに、どこにも行けないということにもなったり、予約制にしてしまうと、多分そのように順番で同じ方がずっと参加してしまったりするのもありました。体制次第では来年のサービスの勉強にもなるしと思ったので参考までに。

私どもは失敗した例なので。「えー、もうできないの」と、閉めるまであと2時間もあのに、来た親子が何もやることがないので。幕張メッセまで来て帰っていく姿を見て、ちょっと悪いなと思ったことがあったので……。そのとき我々は横で、じゃ、ここでのこぎりで切っていいよと、小さな対応をしました。子どもはのこぎりで切る体験ができたのでよかったんですけども、木切れを持って帰るというだけで何とかごまかした感、少々罪悪感がありました。

【神津学芸員】 この12時から16時の長時間で、複数のワークショップ、全て当日参加だということで、色々な場面を想定しておかなければと思っています。ストラップは時間が4回に分かれている。ハニカムペーパーフラワーが一番すぐできてすぐ終わってしまうかもしれませんが、50人想定です。旗飾りも出来たものをどんどん飾って、会場が変化していくと面白いという話が出ています。

【鉄矢会長】 ワークショップを運営していたときも、材料が足りなくなるというのが一番怖い。材料がなくなった後に、美術館のコラージュがあるということで少し安心しました。

【神津学芸員】 コラージュの材料はたくさんあります。

【千村委員】 そして、これをそれぞれに教える人のほかにスタッフというか、お手伝いが何人もいるんですか。というのは、連れてきたお母さんとかお父さんが一緒にやってくれる人もいるけれども、お父さん、お母さんは全然別なところに行ってしまうと、何もできない子どもや兄弟とか置いていかれてしまうと、何もかもやっただけでならないみたいなときもあるんですよ。

【神津学芸員】 一応、小学4年以下は保護者同伴と書いてありますが、託児所があるとは書いていないので、幼児の方は親子で参加としていただきたいと思うんですけども。休憩スペースが必要だというのは話し合っていて、それをはげの森コーナーにする。絵をかいたり、コラージュできたりする場所をちょっと広くとろうと思っています。当日スタッフに関しては、講師の方がそれぞれの采配でアシスタントの方を連れてきていただくこととなります。

【鉄矢会長】 わかりました。では、所蔵作品展は計画、予定ということで。

【神津学芸員】 本年度の所蔵作品展として、工事が終わっているのが3月ということなので、一応3月から5月を予定しています。今年度も年度またぎで、会期としてはほとんど来年度のものになるのですが、テーマは、研一と富子の仲むつまじいエピソードを軸にしたものです。タイトル等はまだ決まっておられません。3月下旬でほんとうに未なのは、工事が終わってからということで、こういった時期になっています。

【鉄矢会長】 ご質問、ご意見等ありますでしょうか。

では、2 その他、(1)多摩アートミュージアム・ネットワーク「たまわーる〈Tama Art〉ラリー」について。

【神津学芸員】 こちらは猫展でシールを配布していましたが、休館するけど11月

にワークショップをやるので、そこでは配付しますというふうにラリーのパンフレットに記載していて、それが先ほど言った「はけのワークショップ市」になります。この日は「たまわーる」のシールをただ見学に来た人にもどんどん配付する予定です。「これ以外にシールはもらえないのか」といった問い合わせが今日もあったのですけれども、この13館をぐるぐる回ってシールを集めてというのは、2年目になって大分定着してきたのかなと思って見えています。

また2年目ということで、ウェブ美術館というのが「たまわーる」のサイトの中に出てきました。各館2点から3点、所蔵作品の他、施設の紹介など、写真と解説を簡単に載せたものが、11月1日と12月1日の2階にわたって公開されます。インターネットの中でも多摩を回りましょうという企画で、投票制なので、ぜひちょっとのぞいて参加してみてください。

この多摩アートミュージアム・ネットワークというのが、今は構想研究会ですけれども、美術館としてはこの事業が続いている限り参加したいと思っている次第です。

【鉄矢会長】 ご意見、ご質問等ありますか。

では、(2)美術館改修工事について。

【事務局(吉川)】 美術館改修工事なのですが、今、設計をやっております。先回の運協で寝室とキッチンの中の壁が取れるか取れないかという話をしていましたが、構造上、壁は取れないということになりましたが、さすが設計の人はプロだなと思ったのですけれども、寝室のお風呂を取って隣の倉庫側に広げたらどうかという案が出ていまして、その案でいこうかと思っています。ただし、予算上、空調の工事ではほぼ今年度の予算が終わってしまうということで、多目的室のほうは手をつけられないでしょうという予想が出ています。

実はまだ暑いころに、東京都のほうに市町村総合交付金というのを申請しておりました。地域特選事業枠という交付金をいただけないかということで申請していました。美術館だけではなくて、芸術文化の振興で「人とまちを豊かに」というテーマで、小金井市としては一押しということでそれを出していたのですけれども、今年はずりたく、今は内示ですが、一押しが取れました。単年度予算ですので、今年の予算については、そういう状況なのですけれども、来年の予算のほうはまだというところで、非常に財政状況が厳しいみたいですし、市長の問題もあって大変心配しているところです。

一応工事のほうも空調は完全に今年度で終わらせるのですけれども、多少余った金額

で多目的室を、例えば壁をはがしてしまったり、床もはがしてしまったりと、来年度の予算がゼロになってしまうと、ほんとうに哀れな状態で止まってしまうので、どうしようかなと……。ともかく恒温恒湿の空調については今年是可以。お風呂が取れて多目的室ができると飛躍的にはけの森美術館の未来がひらけてくると思うのですが。

どうにかそうなるように持っていきたいなと思っていますが、今日も建築営繕課の職員と話をしましたが、いろいろなやり方があるって、お金がないと、もともとの床は残しておいて、取り払ったところだけ色が変わったりして継ぎはぎみたいになってしまう事があるんだそうです。そのようにはしたくないんだけど、どうしようかと建築営繕課の職員も悩んでおられて…というくらい結構厳しい事情をご承知していただいて、事務局としては予算を取るべく努力しておりますので、楽しみにしててください。

【鉄矢会長】 何かご質問、ご意見等ありますか。

私、意見です。多分、行政が直す素材より、今使っている素材のほうが高品質なものなのかもしれません。新しい素材のほうがきれいに見えるけれども、10年たった後、素材はどっちがよかったのというと、多分、今のもののほうがいい床材だったりするんじゃないかなとは思っています。そのような色の違いなんていうのはまだ小さな部類ではないかなと思っております。来館者が、「ああ、中村研一の家ってこういうふうだったんだね」というような、エピソードを感じても別におかしくないと思います。

【淀井委員】 発注が来ない前にね。いいかもしれない。

【鉄矢会長】 逆に、無理にはがして薄っぺらなもので、「ああ、表面的にきれいになったじゃない」という評価を受けて、「来年度はやらなくても大丈夫だね」と言われるほうが根本的な改修にならないのではないかと危惧します。はがしっぱなしでもいいような気がします。

【豊岡委員】 鉄矢先生がおっしゃるように、設計士の人への報告や専門的にここをとりはらってというのと、今、鉄矢先生がおっしゃったように、そのものの価値みたいなものを考えたときどうかというものさしも必要かなということはあるですね。もちろん美術館としての機能をきちっと備えるべく設計をして広げたいというのは必要でしょうけれども、ただ、それはやはり重要な視点かなと思いました。余計なことですが…。

【神津学芸員】 今、変えようとしている部分というのは研一が生きていたころにあった部分ではなくて、研一の死後にご遺族の方が住居として使用していた部分なんです。

【鉄矢会長】 おっしゃるのは、多分どういうエピソードを建物に持たせるかというところで、子どものワークショップをやったときに、「ここは昔お風呂場だったんだよ」というラインがあって、ごっこ遊びじゃないんですけれども、「え、これ昔住んでたんだ」ということもエピソードとして楽しく使うかどうかですね。使わなければ別に要らないエピソードなので、お金がない、予算がないときに、自然にそういうふうになってしまったことで、実はそれを使ってデメリットをメリットに変えていくような活動もできるかもしれないですね。皆さんの工夫だと思います。

【鉄矢会長】 では、(3)平成24年度の事業について、お願いします。

【神津学芸員】 毎年度のことで、来年度の予算が決まるまでお伝えできることは少ないですが、改修工事が入ることもあって、企画展は1本になっています。例年企画展2本、所蔵作品展2本実施しているんですけれども、来年は企画展1本で、所蔵作品展が2本、ほかに教育普及事業等は例年通り展覧会関連の他、1本から2本という形で進めています。

【鉄矢会長】 では、ご意見がないようでしたら、協議事項に入ります。(1)運営協議会からの提言について。

はい、まず私から。前回提言(案)を出しましたと言って、事務局に随分ご協力いただいて、一応私の意見をまとめていただきました。私もこういう案になっています。少し読んでいきます。

小金井市立はけの森美術館、5年間の運営の実績と課題、未来の10周年に向けての提言、小金井市立はけの森美術館運営協議会会長、鉄矢悦朗。

小金井市立はけの森美術館運営協議会は、平成18年4月の美術館の開館とともに、小金井市立はけの森美術館条例第12条により、美術館における運営のあり方、事業内容、経営等について、美術館と並走しながら、諮問に応じ、多様な課題を検討してきた。

本年開館5周年を迎えることをひとつの区切りと考え、開館以来5年間の美術館運営協議会での議論より、小金井市立はけの森美術館の課題を踏まえ、以下のとおり提言する。

記、はけの森美術館は今年で開館から5年目を迎えた。非常勤の学芸員(2~3名)と薩摩学芸顧問などの尽力により現在の評価を得るまで、下記3つの活動を基盤に展開してきた。①所蔵作品展、②企画展、その中でも特に、特色ある美術館コレクションを紹介する展覧会は、他美術館や専門家からも高く評価され、NHKの「新日曜美術館」で日本全国に紹介された。競争の激しい「新日曜美術館」の広報枠にあって、5年間の

間に企画展が3回も（「京都府立堂本印象美術館」「冬の彼方に～高原の画家、田村一男の世界」「ガラス絵～浜松市美術館の名品～」）全国放送されたことはその成果のひとつといえる。③教育普及活動、特に子どもに対して、個性的な体験型ワークショップを工夫し展開している。

このような実績から、小規模な美術館ながら「小金井市立はげの森美術館」の名は、開館5年にしてかなりの知名度を上げている。

しかしながら、この5年間の運営の現状は厳しく、対外的な評価に対して楽観できるものではない。

五里霧中で走ったこの5年間のステップに、来たるべき開館10周年に向けては、市民の誇れる美術館としてさらに成熟しているよう、施設、組織ともに整備改善されたい。

1、市立美術館に対する市のビジョン（中・長期的な展望）を明確にし、明文化すること。2、過去に提示された2つの提言は、条例や運営に反映されているとは言い難い。この2つの提言を活かし、美術館運営の指針となるべき管理運営実施計画を策定すること。3、5年間運営してきた中で、下記の点で条例に不都合が生じている。条例改正を検討すること。3の①ですけれども、運営協議会委員の中に、美術館の責任者である「館長」が含まれているため、運営協議会が第三者評価機関としての役割を果たせない。「館長」を運営協議会の委員から外すこと。次のページに行きまして②、予算が少ない中で人員配置の運営に限界がきている。現在の人数で運営を行うのであれば、休館日を1日増やし、週5日開館にすること。

4、運営上の問題について。①常勤職員（学芸員又は事務職員）が1人もいない公立美術館は多摩地区においても存在しない。常勤職員の欠如が公立美術館の社会的信用度を大きく損ねている。開館5年を経ても問題点が改善しないことから、今後は、他館からの作品借用を断られる可能性が大きい。この問題について市として見解を示すこと。

②「学芸顧問」という肩書は、本館が非常勤学芸員しか存在しないために、芸大美術館教授の薩摩雅登氏の社会的信用をお借りするための形である。薩摩氏個人の信用に負うところが大きい。職名では、美術館の社会的信用度を損ねている。「学芸顧問」ではなく、専門職の「館長」を置くこと。

③展覧会の企画は2年前、3年前から準備が始まる。1年任期（更新可、年限有）の非常勤職員に、任期を超えた企画の責任を持たせるのは無理がある。特殊な職種の非常勤であるのだから、任期について検討されたい。

注釈のほうは、①のところですか。小金井市の場合、出来上がった美術館をそのまま負担付き寄付されたという特殊条件から、「美術館とはどういうところか」「学芸員とはどういう仕事をするのか」などの基本的な情報が開示できていない。

アスタリスクの2番です。平成16年3月の「小金井市民の美術館」を目指してという提言と、平成18年2月の小金井市立はげの森美術館管理運営実施計画についての提言。

アスタリスクの3、美術館の責任者である館長と事務局側の責任者であるコミュニティ文化課長が兼職であることに加えて、館長として運営協議会の委員になっていることから、第三者評価ができないことはもちろん、運営協議会開催中の事務局側、美術館側からの責任者の発言ができず、運営上無理が生じている。

こういうことを発言するのも、実は運営協議会としてこれを案と出すのも、鈴木委員がいる中ではしにくいのかもしれないんですけども、ちょっとこれをご検討いただきたくて、まず案として出させていただいています。

そして別紙として、学芸顧問の意見というもので、次のページがあります。これは2階の利用方法などについてという今後の課題も含めて、薩摩先生のご意見もありますので、ここを踏まえて、最初は混ぜて書こうと思ったんですけども、混ぜて書くよりもこれはこれとして、顧問の意見としてしっかり尊重して出して、この運営協議会としての提言をどう出すかというのでこう出して、メンバーに館長がいらっしゃいますので、この辺の文章の修正もあるんだと思うんです。

どの辺をどう修正していくのか……。いかがでしょうか。

【千村委員】 いいと思いますけれども。

【鉄矢会長】 事務局から補足説明がありますか。

【事務局（吉川）】 特にございませぬ。鉄矢先生との意見交換で、シンプルにということで、シンプルに作成しました。

【鉄矢会長】 薩摩先生がいらっしゃるのが私はすごく力強くいいと思うのですが、そこにあまりに頼ってしまうと、組織としては、いなくなったときにどうしようもなくなってしまうというのでは良くない体制です。来年やると決まっていないう学芸員の方々に、「来年何ですか」と聞いているという状況も、やはり両方変だなと思いがらずと進んで5年やっていたので、その辺をどうするか。

どうですか。どっちがいいのか、まず館長として聞くのか、運営委員ですか。

【鈴木委員】 難しいです。専任の館長を置くのがベストだとは思いますが、厳しい財政状況等ありますので。

【鉄矢会長】 意見も言いにくいですよ。事務局を運営する側と美術の学芸側という格好の人とぶつかって、そんなこと無理だよという話がずっとできないままですから。

【鈴木委員】 今、市が置かれている状況というのがある程度わかっていますので、やはりなかなか難しい部分はありますよね。

【鉄矢会長】 これは会長名で出すのですか。提言（案）は会長名で出すのですけれども。

【事務局（吉川）】 いろいろな事例を見ましたが、会長名とか、委員長名で提出されています。

【鉄矢会長】 委員長名ですけれども、これは協議会として出している。

【事務局（吉川）】 そうです、もちろん。

【鉄矢会長】 協議会として出すときに、館長の立場は悪くなってしまいませんか。

【千村委員】 複雑なものなのかな。

【鉄矢会長】 すごく複雑な……。

【鈴木委員】 私一人で委員をやっているわけではないので、仕方がないでしょう。

【千村委員】 委員であるときは館長でなくという感じなのかな。

【鉄矢会長】 委員であるときも館長なんでしょう。

【千村委員】 館長なんだ。

【鈴木委員】 当初は専門職の館長が置かれる事を想定して運協の委員に入っていると思います。実際は課長が兼務ということで難しい立ち位置になってしまいましたが。

【鉄矢会長】 表現として、もう少し丸くしてこう第三者評価なのか、どちらの立場で発言していいのかというのがあいまいなままで、私のほうでこういう表現にしてしまいましたが、ほかにご意見はありますか。

【千村委員】 館長が入っているというのは、私たちはこうしてやっているけれども、後でだれかが議事録を見て、「あ、館長が入っているんだから、あまり厳しく評価していない」という印象を持つでしょうね。

【薩摩学芸顧問】 私も言いにくい部分もあるのですが、二枚という誰でも読んでいただける程度の量で、基本的なことはきちっと出ていると思います。これは提言ですから、すぐに実行できることではないと思いますが、問題点としては整理されていると思

いますので、館長が後でまずい立場にならないならば、これでよいと思います。要は、いろいろな方が読んでくださって、もう少し柔軟に考えてもらえれば。例えば、美術館は月曜休館、週6日開館などと誰も決めていないのに、なんとなくそうなっているだけの話で、平成18年2月に提言が出る前に条例ができてしまったので、条例を作られた方が慣例で決めてしまったのだと思うので、この辺でこれを機会に、常勤職員の問題や、非常勤の学芸員一人だけにすることの問題などもありますので、次の5年間に向けての新たな提言になればよいなと思っております。

私が1年ほど前にこれを書いたところは、その時に正直に書いたものなので、補足そして添付するならば、特に修正はありません。いずれにせよ、5年という節目ですので、何かひとつ定款を作ることが必要だと思います。

【鉄矢会長】 ほかの委員。

【淀井委員】 すみません、前回の問題ですけれども、きちんと入っているので私は良いと思います。

【千村委員】 役割をこうやって済んできたわけなんですけれども、かかわっていない人たちは、かかわっていないというか、組織について興味もない人たちは、あまり感じないで通り過ぎてしまうと思うんです。けれど、この学芸員の方々の事情というのはすごく耐えてきたものがあると思うんですよね。それで、やってきてくださったからそれでよかったかなみたいな気持ちが私たちの中にはあるんですけども、やはり不条理ということの大変さは大きく強調して、この提言の中でも強力に発信していくのかなと思います。一生懸命やっってくださいで過ぎてきてしまっって、それでいいみたいな感じをすごく持っているんですけども、個々の皆さんはどういうふうに感じているのでしょうか。

【鉄矢会長】 では、あと多少文言の修正、読みにくいところ等の修正は私のほうに一任していただけて、案を取らせていただいて、市のほうに提言として出すという感じでよろしいでしょうか。

—了承—

【鉄矢会長】 ありがとうございます。では、その他。

【事務局（吉川）】 これは芸術文化振興計画の推進事業ですが、計画の中にアートをどう評価していくのか評価機関をつくりなさいというものがあまして、今年が3年目で準備期間はこれで終わるのです。今、東京大学大学院の小林真理先生のゼミと一緒に共同研究しているのですが、研究期間も今年度で終わってしまいますので、それまで

に、目に見えないものの評価をどのように見せていったらいいかというテーマで講座を
やりますので、ぜひお時間がありましたらご参加ください。

以上です。

【鉄矢会長】 その他、ほかにありますでしょうか。

特にないようですので、平成23年度第3回小金井市はけの森美術館運営協議会を閉
会したいと思います。ありがとうございました。

— 了 —